

てびねり

十一月号

平成21年11月1日発行
株式会社ゆしま陶助

冷泉家時雨亭叢書完結記念

れいせいけい うたもり

「冷泉家王朝の和歌守展」

前期 10月24日～11月23日
後期 11月25日～12月20日

会場 東京都美術館
主催 朝日新聞社

京都の冷泉家と聞いただけで特別の響きを感じますが、藤原定家を祖とする京都冷泉家が大切に守り伝えてきた和歌集など貴重な国宝、重要文化財400点以上が上野公園内東京都美術館で公開されています。点数が多く前期・後期に分けて12月20日までの開催です。

印刷技術などがなかった800年も前に、藤原定家等が丹念に書き写し守り伝えてきた、和歌集などの公開ですが、もし書き写していなければ名歌の数々は今に残らなかったらうと言われています。又、京の都を焼き尽くした天目の大火をはじめ、たび重なる災禍からも奇跡的に守られた日本が世界に誇る貴重な「冷泉家奇跡の文庫」の公開です。

写真左上 冷泉家当主冷泉為人氏（左から3人目）



下右 冷泉家「御文庫」
下左 国宝「名月記」
藤原定家自筆の日記
(朝日新聞HPより)



◆今月の制作風景

新津恭子さん
お正月用の重箱のふたの製作中です。



平石規代さん
小さな急須の大事な細かいところを慎重に！



高石昌和さん
裏面の磁器仕立ての大きな染付の花瓶を作ったのが、この方です。



近藤真弓さん
この六角鉢の柄を付けます。



杉山尚子さん
いつも大きな作品ですが、久しぶりに小さな物に挑戦。



近藤律子さん
納豆小鉢の形を整えて、これから釉薬掛けをします。



小宮昌子さん(お姉さん)
削りでがんばっています。



岡部厚子さん(妹さん)
見本のつつわを見ながらこれから絵付けです。



佐藤真理さん
コーヒードリップです。



蔡金宏さん
小さなぐい呑の削りなのでたいへんです。



坂井隆志さん
ビールのタンブラーを作っています。



鈴木勲さん
四方鉢にチャレンジ！



初級コースご紹介

原田起久子さん
よろしくお願ひいたします。



私が勧める美味しい店

串焼き処「つ多」

推薦者 宮崎誠仁さん
湯島天神男坂入口のそばにある串焼きの店「つ多」は、ご夫婦でもう30年近くがんばっている繁盛店です。すべて注文を聞いてから作るので、新鮮で美味しいお店です。コース料理も単品もお手頃価格で、期待を裏切らない美味しさです。カウンターが広く、ゆったりしているのもいいです。場所は教室でお聞きください。当会員には何かサービスをする時、ゆしま陶芸倶楽部会員と申し出てください。

串焼き処「つ多」

文京区湯島3・32・14
電話03・3832・4663
月曜休み
日曜・祝日も営業しています。
串焼き処「つ多」入り口



今月の作品

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影と「コメント」は講師のみなさんにもお願いしています。

□高石昌和さん 「花器」



高さが40センチもある花器に染付。なるべく磁器に近い色に近づけようと思いました。

□秋月聡子さん 「さんま皿」



赤土で作り弁柄で刷毛目を付けて、ビードロ釉を掛け、酸化焼成をしました。さんまが映えますね。

□澤三紀さん 「ふた物」



カメの甲羅をふたに見立てた面白いふた物です。アクセントのオレンジ色は上絵です。

□畑山菊恵さん 「草文絵皿」



染付をして酸化焼成。草文の上絵は京紫と深緑です。

□上原由美子さん 「花器」



荒く削ったボディーに黄瀬戸と織部がよく合っています。

□小宮昌子さん 「花器」



わざと口元を作りっぱなしにした花器です。上が伊羅保釉、下が白萩釉。形と色がよくマッチした花器になりました。

□大塚美智江さん 「蚊取り台」



茶色の所は焼きで全体は辰砂釉掛けて酸化で焼きました。

□吉川富美子さん 「フインクラー」



五角形の輪花風深鉢。外側は荒く削り油適天目釉を掛けました。

□吉田利子さん 「片口鉢」



陶芸作家<棚橋淳>の片口鉢を見本にして作りました。かなりの出来です。

□石黒郁子さん 「カップ&ソーサー」



弁柄で絵付けをして透明釉を掛け、深みのある織部と掛け分けにしました。

□小窪猛さん 「四方組鉢」



ロクロで作った平鉢を变形させ、ルリラボを掛け、油適天目を刷毛で塗りました。

□中河政子さん 「酒盃」



全体に白萩釉、口元にたっぷりトルコ青を掛けた、少し大きめのとても持ちやすい酒盃です。

□内海泰子さん 「煮物鉢」



形も大きさも使い良さそうな煮物鉢。全体に掛けたルリラボがとてもよかったです。

□石川宏さん 「鉢」



ロクロで作るのも、削りも大変な繊細な形ですが、さすが石川さんです。淡い色も見事に出来ました。

□近藤真弓さん 「六角小鉢」



有田焼の染付捻り祥瑞の六角鉢をお手本に作りました。見事な出来です。

見た事・聞いた事・読んだ事

アンチエイジング (老化防止の...話し)

テレビでNHKを除けば、最近はこのチャンネルを回しても、栄養補助食品や若返りの化粧品や健康器具の販売のコーナーが洪水のように放映されています。しかも、どのコーナーも言い合合わせたように「今すぐお電話ください」と言いますが、浅ましい限りです。

このような「物売り」は少し前までは、夜遅くとか視聴率の上がない時間とかに限られていたものですが、今はゴールデンアワーの中でも突然、若返りの「コーナー」が流れるので驚きます。

人間は大昔から不老長寿の薬を探すが好きで、皇帝の命令で探しに出た家臣が帰るに帰られなくなった話などたくさんあります。日本でも徳川家康がアンチエイジングの先駆者で薬草の調査まで自分でしたそうだし、伊達政宗も、毎日脈を取ったり食事に気を配り、新陳代謝を良くするために水を多めに飲んだり、間食をせず、鷹狩りなど適度な運動をして体調管理に熱心だったと伝えられています。



平成21年度で、90歳以上の人口が100万人を超えた日本では、60歳台、70歳台はまだまだ元気一杯の年代。そして年金など安定した収入もある。そこを狙ってのアンチエイジングの「コーナー」が洪水のようですが、私は「伊達正宗」方式で十分にバランスのよいすばらしいアンチエイジングだと思っています。古今東西、人間が若返ったことなど無いのですから上手に年齢を重ねることが出来たら最高のパフォーマンスだと思っています。(佐藤)「若返る!それが私の「マニフェスト」」